



太平洋戦争末期、東京から吉井町神保の仁叟（じんそう）寺（渡辺啓司住職）に学童疎開していた児童らによる同窓会が十二日、同寺で初めて開かれた。終戦後、各地に散らばっていた児童らが五十七年ぶりに集まり、あふれる思い出話に花を咲かせた。

# 疎開仲間57年ぶり再会

## 東京の国民学校の6人

集まったのは、同寺に約半年間疎開していた東京都北区の柳田国民学校と第二岩淵国民学校の児童六人とその家族。

同窓会は、同寺が昨年実施した古文書調査で、疎開児童が疎開生活の思い出をつづった記念文集が見つかったことをきっかけに開催。当時、親ほく会で一緒に歌い、交流のあった吉井国民学校の元五年生八人も駆け付けた。

この日は全員で昼食をとり、境内を散策。五十七年ぶりに再会した参加者たちは、よく怒られた先生や盗んで食べたクワの実、亡霊が出る松の話など、次々によみがえる当時の記憶を語り合い、つらくもあり楽しくもあった疎開生活を懐かしんだ。

ねー」など、まるで小学生に戻ったような笑顔の参加者たち。笑い声は尽きなかった。

当時三年生で同寺を「第一のふるさと」と話す佐藤千鶴子さん（66）も「千葉県我孫子市」は「当時のことをずいぶん思い出しました。これを機に、もっと大勢の仲間がまたやりたいです」とニッコリ。

児童らの「お姉さん役」だった同寺の渡辺テルさん（61）も「喜んで話が尽きたら、もう一度話したいです」と笑顔で話していた。

## 疎開仲間 57年ぶり再開

### 吉井の仁叟寺 記念文集発見が縁

太平洋戦争末期、東京から吉井町神保の仁叟（じんそう）寺（渡辺啓司住職）に学童疎開していた児童らによる同窓会が十二日、同寺で初めて開かれた。終戦後、各地に散らばっていた児童らが五十七年ぶりに集まり、あふれる思い出話に花を咲かせた。

集まったのは、同寺に約半年間疎開していた東京都北区の柳田国民学校と第二岩淵国民学校の児童六人とその家族。

同窓会は、同寺が昨年実施した古文書調査で、疎開児童が疎開生活をつづった記念文集が見つかったことをきっかけに開催。当時、親ぼく会で一緒に歌い、交流のあった吉井国民学校の元五年生八人も駆け付けた。

この日は、全員で昼食をとり、境内を散策。五十七年ぶりに再会した参加者たちは、よく怒られた先生や盗んで食べたクワの実、亡霊が出る松の話など、次々によみがえる当時の記憶を語り合い、つらくもあり楽しくもあった疎開生活を懐かしんだ。



セピア色になった集合写真や記念文集を見ながら、元児童らの昔話は弾んだ

## 疎開先で57年ぶり再会

### 吉井・仁叟寺 見つかった文集縁に

きっかけは、寺で偶然見つかった学童疎開児童の記念文集だった。吉井町神保の仁叟寺で12日、終戦前に東京から疎開した当時の児童が、57年ぶりに同地で初めての「同窓会」を開いた。「おなかですいていた」「空襲を逃れて来たが、家庭的な雰囲気ですててくれた」。大人になった児童らは文集を手元に再会を喜

びながらも、戦時下をともに過ごした日々を振り返っていた。

「同窓会」に集まったのは、同寺に学童疎開していた東京都北区の柳田、岩淵第二国民学校（当時）の元児童や、交流のあった地元吉井町の国民

学校の元児童ら16人。

同寺の渡辺テルさん（78）と孫の渡辺龍道副住職（26）が昨年10月、記念文集が見つかったことを知らせたところ、「せひ同窓会を」という声が上がったという。

記念文集は同寺の寺史

編さんのため、渡辺副住職が古文書を整理していた際に出してきたという。B5判のわら半紙に疎開生活の感想などが記され、一緒に本堂前で撮った集合写真も見つかった。

7、8年前から学童疎開していた元児童らが同寺を訪れるようになり、吉井国民学校の教師で疎開児童の面倒も見ていたテルさんが、連絡先を聞

き、控えていたという。現在、東京など県外に住む元児童らは「なにしろおなかですいていたなあ」「夜中に外のトイレに行くのが怖くてね」などと話しながら懐泊まりに使っていた本堂や境内を懐かしそうに歩いた。

当時6年だった田内和子さん（88）は文集を読んで、半世紀以上前の自分に「再会」した。「今は胸がいつほいどうまく話せません。東京でも空襲にあい、怖い思いをして半べその生活でしたから」。田内さんの目にはうっすらと涙もあった。